**様式２－３**

【継続】R.２～R.３

令和３年度教育課程研究指定校事業実施計画書

― 研究課題１　高等学校―

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 都道府県・指定都市番号 | ３６ | 都道府県・指定都市名 | 徳島県 |
|

公立 ・ 国立 （○で囲む）

１　研究指定校の概要

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ふ り が な学　校　名 | 　　とくしまけんりつ　わきまちこうとうがっこう徳島県立　脇町高等学校 |  | 　 |
| 所　在　地 | 〒779-3610　徳島県美馬市脇町大字脇町１２７０－２電話 ０８８３－５２－２２０８　FAX ０８８３－５３－９８７５E-mail wakimachi\_hs@mt.tokushima-ec.ed.jp |
| 設置する課程（R3.4.1見込） | 全日制課程 | （R3.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む）　　　教員数　４３名［調査研究にかかわる教科等の教員数］５名 |
| 生　徒　数（R3.4.1見込） |
| 学　科　名 | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | 計 |
| 普通科 | 165 | 178 | 180 |  | 523 |
|  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 特記事項 | なし |

２　研究主題等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教科等名 | 地理歴史科 | 教科課題番号等 | 　　　　　　　１ |
| 学校における研究主題 | 「地理総合」「歴史総合」を見据えた，地理歴史科の科目相互の連携を図りつつ「問い」を重視した授業改善と評価方法の研究 |

３　令和２年度の成果と課題

|  |
| --- |
| 地理歴史科教員が協議し「育てたい生徒像」について共有したことで，生徒に身に付けさせる力を明確に意識し，現代の諸課題につながる単元を開発したことが成果として挙げられる。とりわけ授業開発においては，各教員が協力し合いながら単元を構成する「問い」を考えるとともに，それぞれの専門分野の史資料を持ち寄ったり，ティームティーチング等に積極的に取り組んだりすることを通して，科目相互の連携を図った授業実践を行うことができた。また，地理の授業ではゲストティーチャーの招聘やフィールドワークの形態を取り入れたことで，生徒の深い学びにつながる授業改善に向けて可能性が広がった。その他，考査問題においては「思考力，判断力，表現力等」を測る設問を設定し，解答の検証を通して考査問題と評価方法，授業内容の改善を進めた。一方で課題となったのは，そうした科目間の連携を図ったり，身近な地域社会や他機関と連携したりした学習を，「見方・考え方」を働かせて考察し表現するなどの学習活動を通して，社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識の獲得など，生徒の資質・能力の一層の向上につながるものとするための，さらなる工夫である。そのためにも，地理歴史科で目標とする資質・能力の育成に向けて，単元ごとの目標と学習活動の関係を整理し，各場面の評価方法や評価規準を精査するなど，指導と評価の計画をブラッシュアップして学習評価の改善を図る必要がある。また，こうした科目間連携や教科等の横断を意識したり，地域と連携したりした単元構想を効率的に行うための協力体制を整えることも課題である。 |

４　令和３年度の研究計画

（１）本年度の研究の重点等

|  |
| --- |
| ①地理歴史科の科目相互の連携を一層進めつつ，「深い学び」を促す授業研究○「深い学び」を促す科目間の連携を重視した授業の開発　　地理歴史科のそれぞれの科目の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，社会的事象の意味や意義を追究する主体的・対話的で深い学びの実現を目指し，「問い」を重視した授業改善を進める。その際，例えば地理学習における歴史的背景を踏まえた考察や歴史学習における地理的条件を踏まえた考察など，科目間の連携を重視した学習活動を効果的に取り入れ，社会的事象を時間軸と空間軸の双方で捉え多面的・多角的に考察することのできる力を育成し，各科目の学びのさらなる深化を図る。その際，地理歴史科全教員で取り組む「地理総合」「歴史総合」の授業の共同開発や，歴史教員による「地理総合」及び地理教員による「歴史総合」の授業実践等を積極的に進め，科目の目的と科目相互の関連，探究科目への接続などに留意しながら，「深い学び」を実現する授業を実践する。○教科内での教員の協力体制の整備新課程では地理歴史科の全ての教員が「地理総合」「歴史総合」を受け持つことが想定され，教科内で共同しながら授業開発と資料収集，学習評価に取り組んでいくことが求められる。これまでも個々の教員の専門性を生かしあったティームティーチングを行うなど連携して授業開発に取り組んできた。今後は一層「地理的な見方・考え方」や「歴史的な見方・考え方」を働かせるために，それぞれの科目の学習内容や指導方法等について教員間で共有できるように工夫し，授業改善に継続的に取り組むための効率的かつ持続可能な体制を根付かせる。○身近な地域社会や他機関との連携生徒の関心や生活圏に関わる教材を開発し，現代社会の諸課題の解決につながる力の育成を目指す。博物館や美術館，図書館，文書館等が所蔵している史資料の活用やゲストティーチャーの招聘，フィールドワーク実習といった校外の他機関とも連携した学習機会を設定する。②指導と評価の一体化をめざす評価方法の研究　○観点別学習状況の評価の在り方の共有目標とする資質・能力の育成に向けて，指導と評価の一体化を図る必要がある。新課程で更なる充実が図られる観点別学習状況について各教員が理解を深め，教科会等の時間を活用して，各科目の評価計画と評価方法を検討し，教科として評価の在り方について共有を図る。○「学習改善につなげる評価」の効果的な実践　　これまでも授業中の生徒の発言やノート，ワークシート，グループ活動等から学習状況の見　　取りを行ってきたが，全てを逐一記録することが難しいのは言うまでもない。評価場面を精選して適切に設定し，指導と評価の計画をブラッシュアップするとともに，本研究では，教員の負担軽減を図りながら効果的に学習評価を行う方法として，あらかじめ生徒の学習状況を見取るポイントを計画した単元全体を通して活用するワークシートの作成を行う。このワークシートを活用することで，生徒の記述内容の変化から思考等の変容を見取るとともに，生徒が単元の始めとまとめ段階での自らの思考の変容に気付くことで学習の深まりを実感でき，学習意欲の伸長にもつなげる。さらに，生徒に評価の観点を明示して自己評価や生徒同士の相互評価を行うことなどの検討を行う。これらを通じて，効果的な「学習改善につなげる評価」や「評定に用いる評価」の在り方について検討する。○考査問題の改善地理歴史科教員が共同で考査問題の作成に取り組み，観点別学習状況の評価に関わる設問とその評価規準を議論し，共有することを通して評価方法の改善につなげる。考査問題の改善は教員の授業そのものが問われることでもあり，評価方法だけでなく授業の改善とも連動する。③徳島県ＧＩＧＡスクール構想によるこれからの教育の検討○１人１台端末を活用した授業開発他機関と連携し地理歴史科の学習に活用できるデジタル教材を増やすなど資料の充実を図る。例として博物館等が所蔵するデジタルアーカイブを検索して資料を探したり，jSTAT MAPやアクセスwebGISなどのデジタルGISを用いたりして，資料を読み解く学習機会を設けるとともに，その効果について検証する。 |

（２）研究準備（記入する内容がある場合のみ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施期間 | 取組の計画 | 期待される効果 |
| ４～６月 | ・研究の方向性や方法確認（教科会　随時）・生徒・教職員アンケート実施（年度初め）・前年度の取組を踏まえたグランドデザイン（単元構想・評価方法等を含む）作成（４～６月） | ・生徒・教職員の実態分析と課題の明確化・前年度の実践を踏まえてのさらなる授業力向上 |

（３）研究計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施時期 | 研究内容，研究方法，成果の公開等 | 期待される成果等 |
| 前半 | ・考査問題及び評価方法の検討（随時）・相互授業参観週間に世界史・日本史・地理の各担当者がそれぞれ他科目の視点を活用した公開授業実施（６月下旬）・徳島地理学会での学会発表（７月）・広報（「学力向上推進員研修会」，「教育課程研究集会」等随時） | ・生徒の実態に即した授業づくり及び教材開発・情報交換による授業力向上 |
| 　　後半 | ・ＳＳＨ生徒研究発表会及び教育課程研究指定校事業授業研究会（9月22日）・相互授業参観週間に世界史・日本史・地理の各担当者がそれぞれ他教科・他機関との連携を図った公開授業実施（11月）・公開授業及び授業研究会の参観（９～11月他校地理歴史科や中学校社会科教員の授業参観）　・生徒・教職員アンケート実施（12月）・先進校訪問（12～１月）・最終報告書作成･報告（２月）・徳島県高等学校地歴学会での報告（３月）・研究成果のホームページ掲載（随時） | ・教科として組織的に取り組むことで，思考力等の育成に係る授業改善を効果的・効率的に実施・調査官からの指導助言等を基に，研究の成果と課題の発見・情報交換による授業力向上 |

５　研究のまとめの見通し

|  |
| --- |
| 「地理総合」「歴史総合」を見据えた授業改善を目指し，科目間の連携，身近な地域社会や他機関との連携，１人１台端末の活用等の充実を図りつつ，「問い」を重視した授業開発に取り組み，実践する。授業後は，各場面での生徒の反応や成果物，アンケートなど多様な方法を活用して生徒の変容を評価する。その際，それぞれの科目の目標にある「見方・考え方」をどのように働かせたかや，思考力，判断力，表現力等の育成に効果的であった内容とそうならなかったものに着目し，「深い学び」の実現に向けた授業改善の結果として実践内容を検証する。また，地理と歴史の教員が共同して授業改善に取り組む体制や，地域社会や他機関との効率的な連携の在り方を追求した結果を事例として提示する。さらに，学校現場に新たに導入された１人１台端末の地理歴史科における学習の深化につながる効果的な活用方法についても示すこととする。評価方法の研究においては，観点別の学習状況の評価の在り方について教科内で十分に共有できていることが不可欠であることから，教科内での共有を図るための取組についての成果と課題を明らかにする。その上で本研究では，指導と評価のさらなる一体化を目指すなかで重要となってくる「学習改善につなげる評価」「評定に用いる評価」の効果的な方法について，授業中の見取りや中項目を総括したワークシートの活用，考査問題の改善等の取組を中心に，事例を提示する。 |

６　研究実績

|  |
| --- |
| スーパーサイエンスハイスクール(H22～H26 １期目，H27～R1 ２期目，R2～　３期目)教育課程研究指定校事業(国立教育政策研究所，H30～R1，R2～現在)　 |